

第33回北陸地方ダム等管理フォローアップ委員会 開催概要

ダムの適切な管理に資することを目的に、北陸地方整備局が管理する7ダムの洪水調節や利水補給の実績、環境調査の結果等について有識者よりご意見を伺う「北陸地方ダム等管理フォローアップ委員会」を平成8年度より毎年開催しています。

今年度は、去る2月8日に委員会を開催し、5年毎に実施する定期報告(対象:三国川ダム)と毎年実施する年次報告(対象:全ダム)の内容について審議頂きました。

■日時 令和4年2月8日(火) 14:30～16:30

■場所 WEB会議方式

※新型コロナウイルス感染症対策としてWEB会議型式により開催

■委員(名簿)

委員長	辻本 哲郎	(名古屋大学 名誉教授)
委員	池本 良子	(金沢大学 教授)
	関島 恒夫	(新潟大学 教授)
	中田 政司	(富山県中央植物園 園長)
	中村 幸弘	(元・上越市立水族博物館 顧問)
	平林 公男	(信州大学 教授)
	柳原 佐智子	(富山大学 教授)

※関島委員、柳原委員は用務により欠席

■議事

- (1) 三国川ダム定期報告書(案)について
- (2) 北陸地方ダム年次報告書(案)について



委員会の開催状況(WEB会議画面)

■三国川ダム定期報告(案)について

【総括】

平成28年度～令和2年度の調査結果の分析・評価をとりまとめた三国川ダムの定期報告(案)について、審議された。

その結果、治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況に現状で問題ないことから、三国川ダムについては適切に管理運用されていることが確認され、定期報告書については了承された。

【主な意見】

- ・信濃川という大河川でダムの防災操作に関する評価をする時は、三国川ダムの防災操作の効果の確認だけでなく、水系全体での治水対策の効果とあわせて確認する必要がある。
- ・春先は冬場の流況、ダムの操作運用面から、年度によって貯水位が大きく異なる。今後、注目していきたい。
- ・アレチウリについては、生息が確認されれば、対処が可能なうちに完全に駆除する。拡大することのないように対応した方が良い。

■北陸地方ダム年次報告書(案)について

【総括】

大石ダム、手取川ダム、大町ダム、大川ダム、三国川ダム、宇奈月ダム、横川ダムの7ダムについて、令和2年度の管理・運用状況を取りまとめた北陸地方ダム年次報告書について、報告された。

【主な意見】

- ・国管理ダムの防災操作の実施状況のほか、大規模減災協議会で進められているハザードマップ等のソフト対策や治水協定に基づく利水ダム等の事前放流の実施状況もあわせてとりまとめをお願いしたい。
- ・T-P(総リン)負荷量は、大町ダムは近年高い傾向にある。手取川ダムは古いダムのため上流側から安定していると思う。そういう経年的な視点も入れて考察してはどうか。横並びで見たものをどう考察するか、もう一歩進められたら良い。